★★★令和５年度★★

小坪小だより

６月号

横浜市立小坪小学校　　　　校長　髙田　桂太郎
横浜市港南区港南台４－１１－１　電話　８３２－０６１７

★★

それでもゲームは進んでいく

副校長　　角皆 裕文

保護者の皆様、地域の皆様におかれましては、日頃より本校の教育活動へのご理解、ご協力をいただき、誠にありがとうございます。寒暖を繰り返し、体調を崩しやすい気候でもあります。みなさまどうかご自愛ください。

「副校長先生！ドッジボールできる？」「いやぁ・・今日はちょっと・・・できるよ。」
“お約束”のやり取りのあと、校庭へと出ていきます。ドッジボールをしていると、時々不満の声が聞こえてきます。「線出たよ！」「当たったよ！」「俺はもともと３回当たってもいいのだ！」大人から見るとなかなかに不条理なことが起きているので、是正をしようと思いますが、そこをぐっとこらえてみます。「ちょっと様子を見てみようかな・・」
もどかしさを抱えている私をよそに、子ども達全体としては「ま、それは置いておいて」といった風情で、淡々とゲームは進んでいきます。上手に逃げ回る女の子、ボールを要求してもなかなかまわって来ず、イライラする子。そしてしばらくすると、なんの予告もなくボールがいきなり２個に増えたりします。
「ちょっと！それは！・・」思わす大きな声を出してしまいそうになるが、もう少しこらえてみる。相変わらず全体としては淡々とゲームが進んでいく。
ここで大人が介入し、ルールを整理し、リスタートさせれば“公平に”ゲームは進むかもしれない。でもそれでは何か大切な機会を失ってしまうような気もします。
そんなことを考えていると、こんな声が聞こえてきました。
「そんなんじゃ、楽しくなくなっちゃうよ！」「(そうそう！それそれ！)」
溜飲が下がる思いの私。そうなんだ。子ども達は「みんなが楽しく遊べる」よう、工夫するべきなんだ。大人は「みんなが楽しく遊ぶ」ために必要なことを知っている。でもそれを簡単に適用してしまっては、子ども達の大切な学びの機会を奪ってしまうのではないか。
せっかく子ども達が考え、学ぼうとしているのだから、その姿をギリギリまで見守り、どのタイミングで“よき助言者”として介入するか。それが私達に問われているのではないか。

さて、実際の場面はどうだったでしょうか。
「そんなんじゃ、楽しくなくなっちゃうよ！」確かにその声はみんなに届いたはずでした・・が、相変わらず全体としては淡々とゲームが進んでいくのでした・・。

もう少し、見守ることにしましょう。

マスクの取り扱いについて

気温も上昇し、熱中症のリスクが高まってきました。子ども達の中にはマスク着用が習慣となり、教員が促してもマスクを外すことのできない児童が多く見られます。熱中症のリスクがある場面では「命の危険があるからマスクをはずしなさい」と指導します。ご家庭でも丁寧にお話しいただきますよう、お願いいたします。